

七  
史  
林

一九五六年三月二十五日 発行



第39卷 第2号

史学・地理学・考古学

江南における里甲の編成について……………小畑龍雄(1)

恩寵の巡礼の歴史的な性格について(上)……………富岡次郎(36)

——絶対王制確立期における農民闘争の一形態——

最近における敦煌石窟の研究……………長廣敏雄(56)

書評と紹介

林屋辰三郎：古代国家の解体……………直木孝次郎(68)

秋岡武次郎：日本地図史……………室賀信夫(73)

京大西洋史研究室：傭兵制度の歴史的研究……………田中裕(76)

Chung-li Chang: The Chinese Gentry

Studies on their Role in Nineteens-Century Chinese Society

……………北村敬直(81)

学界消息

史学研究会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室  
東洋史研究会  
振替口座京都三三七八

古者按地畝而征賦役。編圖以總理之。編甲以衆分之。其業田之民。比戸而居者。謂之莊。按莊戸以編征。謂之順莊。大江以北。皆順莊供賦。即按莊田之版圖供役。然不行於江南者。南北地理不同。水陸之勢異也。北方陸地。舟楫不通。糴米輻運。多用牛車。牛車致遠則費繁。費繁則農田之利薄。故東莊之民。不業西莊田者。勢不能也。其有兼業西莊田者。必置丁戸于西莊。經其田中出入。即兼供西莊之賦役。此版圖與順莊。所以通行北省也。若乃江南沃國。舟楫可通行。故住此國者。多兼業彼國田。住城郭者多兼業各國田。即田不過數十畝。亦多分散四鄉各國者。田有分國。役出一戸。以一戸兼衆役。則力役難均。此均田均役。所以奉旨通行也。

これは江北とは地理的条件を異にする江南において、均田均役が行われたことを説くものである。この説はなお検討を要するであろうが、右の文によつて、おそらく均田均役は主として江南に行われたのであろう、と推定しても大きな誤まりはないであろう。

(附記、本稿は昭和二十九年度科学研究助成費による研究成果の一部である。)

——昭和三十年八月二十日——

史学研究会 例会

日時 四月廿八日(土) 午後一時

場所 京都大学楽友会館

講師・演題

諸蕃志の「毗舍耶」「談馬顏等國」について

ローマ元首政治の性格

オアシスをめぐる考古学上の諸問題

木村	宏
浅香	正
岡崎	敬

四四、唐六六一、五代三六、宋二二五、西夏五、元八、清六三一で、総数二二七八となる。ただし、もとのままを完全に保存するものは魏二三六、隋二四二、唐二三五、五代一一、宋五四、西夏五、清六三一、総計一四一四である。

以上、走り書の程度で紹介した最近の新研究と報告とは、敦煌石窟に対する中国学者の関心がきわめて大きいことを察知せしめるものである。これらはまだこの大遺跡の歴史の意義を解明するほんの端緒であることも事実であろう。美術史的にみて、塑像や壁画の細密な観察はすべて今後のことに属するともいえよう。二十世紀初頭の敦煌調査は一方では貴重資料の埋滅を防いだという功績もあつたが、他方では多分に *treasure-seeker* 宝探しという非難から免れなかつたのである。いまや、中国学者が自国の文化財を保護しようとする強い決意と熱心とを以て、困難な調査に着々成果をあげつつあることに敬意を表して、この稿を終りたい。

執筆者紹介

小畑龍雄	山口大学助教授
富岡次郎	京都大学大学院特別奨学生
長廣敏雄	京都大学教授
直木孝次郎	大阪市立大学助教授
室賀信夫	前京都大学助教授
田中裕	京都大学講師
北村敬直	大阪市立大学助教授

とついで豊富な実例を引用しており、この点は大いに参考になる。また、ジュントリの政治、経済、社会各分野における活動にして、その結論は、日本での研究と大体一致しており、特別に目新しいものはない。本書の本領は、ジュントリの統計的研究にあるのであつて、それが著者の目的なのである。こういう数量的研究は、著者もいうように、社会科学の基礎的方法の一であり、著者はこの方法を、歴史的研究にあてはめ、ジュントリ研究の第一着手としたのであつて、これは今後さらにちがつた方法、ちがつた角度から対象にアプローチすることによつて、一層完全な研究に近づいてゆくことであろう。ともあれ、本書は、その論旨も手がたく慎重であり、詳しい附註と共に、一度よんでおくべき書物であることに、まちがいはない。

—— 北村敬直 ——

### 「梅原蒐集朝鮮考古学資料」の公開について

京都大学文学部考古学教室の梅原末治教授は、大正七年九月以降昭和廿年まで、朝鮮總督府古蹟調査事業に関与し、その間、多くの業績を挙げた事は、朝鮮總督府刊行の古蹟調査報告、同特別報告、朝鮮古蹟研究会の調査報告その他によつて知られる通りである。それらの古蹟調査の傍ら朝鮮總督府博物館、李王家美術館、平壤府博物館等の公の収蔵品をはじめ、民間蒐集家のコレクションに於て梅原教授が作られた記録は、亦長大なものであつて、実測図、拓本、写真焼付の類が常に一万点を越え、中には他の調査員による発掘で、未刊の写真や記録が含まれている。

敗戦以来の国際事情は周知の如くであつて、朝鮮考古学の研究に当る日本人学者が生の資料に接する機会は当分来ないと思われる。而も朝鮮側においてさえ、朝鮮動亂の戦禍甚しく、考古学的資料の安否が氣遣われる有様である。かように考えると右の梅原教授作製の資料がいかに貴重なものであるかがわかる。従つて同教授がこの資料を一般研究者に公開する事は学界が挙げて歓迎する所とならう。

梅原教授は昭和二十八年秋以来同教室員を督促して整理を行い、この程そのうちの六千余点についてカード三通宛の作製と未刊資料の複写を終つたのを機会として、これを一般に公開することとした。

同資料は考古学教室に備えられてあり、写真焼付、実測図、拓本及び記録の各葉ごとに番号が附され、カードによつて検索するように整理された。

本資料はその性質上ひろく内外の研究者によつて利用される事が望ましいので、それについて次の様な条件を設けた。

- (一) 本資料中の写真、実測図を利用して發表する場合は必ず「梅原蒐集朝鮮考古学資料」と明記し、資料番号を附する事。
- (二) その写真に就いては原板が京都大学文学部考古学研究室に保存してあるので、それから直接の印画を希望する研究者は写真番号によつて実費（送料を含む）を添えて同研究室に直接申込む事。
- (三) 本資料を利用した著作を發表された場合、編著者は必ずその著作を右考古学研究室に寄贈されたき事。

(有光教一)

史学研究会々則 (昭和二九・一一・一改正)

- 第一条 本会は史学研究会と称する。
- 第二条 本会の事務所を京都大学文学部陳列館内に置く。
- 第三条 本会は京都大学文学部史学科を中心として同好の士相集り史学に関する研究をなすことを目的とする。
- 第四条 本会の事業は概ね左の通りである。
  - 一 会合
  - 二 研究調査及び見学
  - 三 会誌(史林)等の発行
- 第五条 本会に理事長名、理事五名、監事三名、評議員貳拾五名、及び委員若干名を置く。
- 第六条 理事長、理事及び監事は評議員の選出による。理事長は本会を代表し、会務を統轄し、会員総会、理事会及び評議員会を召集する。理事は理事会を構成し会務を処理する。監事は会計経理を監査する。
- 第七条 評議員は会員総会においてこれを選出し、会務の諮問に応ずる。
- 第八条 委員は理事長これを囑託し、編輯、庶務、会計の実務を分掌する。
- 第九条 役員は任期は二年とする。但し再任する事が出来る。本会の目的を賛し新に会員にならうとする者は、入会申込をなし理事会の承認を受けることを要する。
- 第十条 会員は所定の会費を納入して、本会の会合に出席し研究、調査、見学その他の事業に参加し、会誌「史林」の配布を受け且つこれに投稿することが出来る。
- 第十一条 毎月一回例会を開く。会場等はその度にこれを定める。
- 第十二条 毎年秋期に於て総会を開き研究、調査、見学を行い及び会務の報告をする。
- 第十三条 本会の経費は会費、事業収入及び寄附金を以て支弁する。会費は誌代を以て会費とする。
- 第十四条 本会のため功績顕著な者は評議員会の議決により名誉会員に推薦することが出来る。
- 第十五条 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基く会費金額の変更は理事會がこれを行う。

編 集 後 記

規則正しい刊行を身上としてきた点からいえば、僅かな遅滞とはいえ、三九巻二号を三月一日にお届けできなかったことにやや心苦しいものを感じる。しかしこの号は、東洋史・西洋史・考古学のそれぞれの分野から、実証的な御論致をお寄せいただいたて充実した内容をそなえることが出来た。喜ばしい限りである。ただ欲をいえば当方の量質両面の充実をはかりたい意向からいって、御寄稿下さる場合には、なるべく枚数の制限をお守り願いたいものである。また書評欄には、最近の問題作四篇をとりあげて、御専門の諸賢に大いに論じていただいた。これも価値あるものであろう。(末尾)

一九五六年 二月二五日印刷  
 一九五六年 三月一日発行

史 林 (第三九巻 第二号)

定価 百円

発行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町  
 京都大学文学部内

振替京都五一五五番

理事 長 原 隨園  
 編輯 主任 赤松 俊秀

印刷所 中村印刷株式会社  
 京都市下京区七条御所ノ内東町三九

# THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. XXXIX NO. 2

Mar. 1956

---

## CONTENTS

### Articles :

- The Institution of Li-chia (里甲)  
in Chian'nan (江南) ..... *T. Obata* (1)
- The Historical Background of  
the Pilgrimage of Grace ..... *T. Tomioka* (36)
- Recent Studies on Touen-houang (敦煌)  
Cave-Temples ..... *T. Nagahiro* (56)

### Book Reviews & News

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI  
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan